

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890500057		
法人名	株式会社 ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームひょうご湊		
所在地	神戸市兵庫区荒田町3丁目82-2		
自己評価作成日	平成28年1月17日	評価結果市町村受理日	2016年 3月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	2016年 2月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住みなれた地域との交流が図れるよう、近隣の小学校の登下校の安全誘導を出来るだけご入居者で行ったり、子供施設の夏祭り等の行事に参加しています。また、なじみの商店街や市場と一緒に買い物に出かけたり、近隣の友人の方の訪問もあり、以前の生活の継続が出来るようにしています。気軽に外食したり、ドライブに出掛ける機会を設けて楽しみの機会を作っています。行事や音楽療法では同じフロアのメンバーで常に行うのではなく、フロア合同で18名の方が交流できるような機会を作っています。洗濯物を干す、たたむ等も入居者が協力できるように移動型の物干しを使用し生活環境の維持が出来る環境を作っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は下町情緒が残る住宅街の一角に有って、近隣からの利用者が多いので訪れる友人が多い。毎日行っている登下校時の安全誘導で、子供たちも顔なじみになっている。利用者が、生活の主体を持ち続けられるように支援するという事業所の理念を実現させるべく、洗濯物を干したりたたんだり、食事の配膳、食器洗いなどの家事を手伝って貰っている。リビングは2方向から陽が差しこんで明るく、ラジカセから静かな音楽が流れ、利用者はテーブルやソファで思い思いに過ごしている。利用者の顔を浮かべながら職員が工作了木製の表札が、各居室に掛かっていて、フロア全体の暖かさを演出している。近隣の小学生からの贈り物であるメッセージボードが壁に掛かり、利用者と事業所が地域と深くかかわっている事が分かる。今後とも地域の資源として発展されることに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まんてん堂の理念を入社時に説明し、各フロアにも理念を掲げている。「地域に密着した介護サービスの運営方針」を職員と共に作成し、より地域に貢献している。またカンファレンスなどで話し合う機会を作り、職員、管理者で理念を共有している。	法人の理念を事業所の案内チラシに刷り込んで、外部発信するようにした。利用者の話を傾聴することによってニーズを把握している。利用者が主体性を持った生活が続けられるよう、日々のプログラムや計画に反映させて、理念の実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の登下校の安全誘導を入居者様と出来るだけ行っている。また、子供施設との交流会を実施し、夏祭りやクリスマス会に参加している。	毎日、登下校時の安全誘導をしているお礼として、事業所の敬老会に子供たちが訪問してくれた。トライやるウィークでは、中学生が来訪して利用者とのおしゃべりを楽しんだ。後日お礼の葉書が届き、子ども達と楽しい交歓が出来た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動に参加し、交流を図っている。また、デイサービスと合同で消防訓練を実施し、近隣にも参加頂くようお知らせを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を通じて地域参加の案内、サービスの報告を行なっている。また、地域の方からの発信の場としても情報を提供して頂いている。	利用者、家族、地域包括などが参加している。行事案内、ヒヤリハット、人事異動の報告と意見交換をしている。家族の要望に応じて、利用者の日頃の様子の履歴が、居室で見られる資料を準備した。希望する家族には、室内の掃除(トイレ以外)を手伝って貰うようにした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議ではあんしんすこやかセンターの職員が交互に参加され、入居者様の生活の様子を伝えたり、運営に関しての助言や、地域の情報の交換が出来る場所となっている。	必要に応じて、市の担当部署を訪問する事によって情報を交換している。生活保護受給者がおり、市の担当者が毎月一回来訪する。その機会に相談をし、助言を貰いながら関係性を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職員研修では必須事項とし、現任職員では社内研修を行い、周知徹底し身体拘束排除に努めている。	玄関は夜間以外は開錠している。エレベータへ通じるドアは電子ロックしていて、フロア間の移動は制限されている。日曜日は、階下のデイの広いリビングに集まり、カラオケなどを楽しむことで、解放感が味わえるよう努めている。	職員の眼が届く時間帯だけでも、フロア間をエレベーターで自由に移動できる工夫を望みたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職員研修では必須事項とし、現任職員では年1回は社内研修に全員参加し、周知徹底し自分たちの行動が虐待になっていないか検討する機会も設けている。	職員は入社時と毎年の研修で学んでいる。利用者の受け取り次第で、心理的虐待につながることに職員が気付いた結果、言葉掛けには特に注意を払っている。管理者は、職員のストレスを表情から察し、個別に話を聞いたり、カンファレンスの中で話し合う様にしている。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状ご利用されている方がいるが、全職員対象の研修の機会が持てず。今後は研修を行いたい。	成年後見制度の利用者が3名いる。職員は、事例を通して概要の理解は出来ているが、予定していた研修は開催できていない。今後引き続き、担当の司法書士へ、研修の協力を働き掛ける事としている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明から契約に関しての内容以外に、グループホームの生活内容やご不安な点をお聞きし、その都度答えている。	希望者が見学で訪問した際に、利用者の状況を聴き取る。入居可能となった時点で自宅を訪問して説明し、看取りへの対応などの疑問に答えている。入居日に詳細な説明を行い、納得の上の契約となっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を各ユニットへ設置しているがご家族の意見は常に職員や管理者に直接伝えていただけている。また、運営推進会議にて、計画作成者、管理者への意見交換も行なっている。	家族からの意見や要望は、来訪の都度訊ねる事によって把握している。敬老会で渡すパスデイカードを、直近の物と以前の物とを分けて貼り出す様に改善した。しかし、運営推進会議でも、運営に関する意見は出ていない。	気軽に意見等を聞く機会や何らかの工夫を検討されてはどうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	36協定にて職員代表を設置し、各事業所の職員の会社への意見を吸い上げ提出している。朝礼や職員会議の時間に、個別ケースの送りだけでなく、会社の取り組みを伝えたり、職員の思いを話せる時間を作っている。	管理者が毎月個人面談を行い希望を聞いている。法人のエリアマネージャーが度々来訪して、直接職員と対話する中で、思いを把握している。職員からの意見を採用し、シャワーチェアを購入した結果、利用者に喜ばれ、ケアがやり易くなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新規事業では、公募を募り、ステップアップできる環境を整えている。また、年数やスキルに応じて、外部研修や体験研修に行き、やりがいをもち働いている。昇給や賞与は評価制度を導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修を積極的に行い、スキルアップを行っている。また、管理者と職員の個別での面談を実施し、ケアに困っていることを話し合う機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他まんでん堂のグループホームの職員の交換研修を実施し、交流を図っている。また、計画作成者研修を行い、他の事業所と知識を深めている。兵庫区グループホーム連絡会に参加している。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に本人に要望を聞き基本状況だけでなくわかりうる範囲でのアセスメントを取っている。また、日々の関りの内容をご本人に確認しながら行っている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談から入居当日に繋がるまで、同じ職員がご家族との関わりを持つようにしている。また、窓口になる担当職員を決め、より馴染みの顔になれるよう工夫している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当面の介護計画をたて情報が得られる内容での関り方を示すようにしている。暮らしの中で他のサービスの支援も視野に入れ努めている。電話連絡等話をする機会を作るよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に自分たち本意のケアで考えていないかを話し合う機会を設けている。また、ご入居者が望むことをどう実施するかをご入居者様と一緒に考える時間を作っている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の関りのなかで御家族との関係を欠かさずことなく食事、お茶など一緒に過ごせる時間を作らせていただいている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係にある方にも積極的に来所して頂くように声をかけている。また、近くの市場に行き、馴染みのお店で買い物する機会を設けている。	2ヶ月ごとに馴染みの商店街へ出掛ける。顔なじみと出会うと、話に花が咲く。近隣の小学校へ野球の練習を見に出掛ける。階下のデイを利用中の夫が、週に何度も階上の妻と話して帰る。利用者がフロアーに有る電話で家族と気楽に話せる様、便宜を図っている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士が楽しく話をされている時は見守り、雰囲気壊さないように努めている。また、協力して家事や調理のお手伝いなどをして頂いている。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方が同敷地内のデイサービスをご利用中で近況をお聞きしたり、自宅での生活での相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向を聞き、プログラムに反映している。特に夜間や入浴時にはゆっくりと話を聞き、得たニーズは朝礼にて報告し、ケアプランや日々の活動に活かしている。カンファレンスにて、ご意向を検討する機会を設けている。	コミュニケーションが難しい利用者の場合は、家族や友人の来訪時のやりとりから、意向を把握する様にしている。又、日々のレクリエーションに参加している際の表情から、利用者の興味の対象を把握している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの中で入居前の暮らしについての記載箇所を設け、入居前、入居後とし情報の把握を行なっている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時には、全ご利用者様に挨拶し、表情や身体状態の変化の把握を行っている。体調やその日の気分にあつた接し方を心掛けている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員・計画作成者が話し合い、現状の把握を行っている。また、月1回はカンファレンスを実施し、ケアのあり方を話し合う。家族様のご意向は計画作成が事前に確認し、計画に反映させている。	日々、「申し送り票」に記録する事によって、職員間で情報共有を行っている。フロアの担当を中心に、毎月ケアカンファレンスを行っている。モニタリングは担当職員とケアマネで、3ヶ月ごとに行う。計画の見直しも、基本3ヶ月ごとに行っている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録やケアの実践結果を個別のケース記録に記入している。朝礼にて、ケアの変更を感じたことは報告し、ケアプランの変更にも活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスと連携した行事や、訪問マッサージを受けられる事など既存のサービスに留まらないサービスを行なっている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の地域資源の把握に努めている。教会の方やご近所の方の来訪を積極的にお受けし、生活を豊かになるよう支援している。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、協力指定医による往診、月2回の訪問看護の巡回が行なわれている。従来のかかりつけ医の継続の際はご家族、又は職員が付き添う。	これまでのかかりつけ医の受診継続を優先しているが、現在多数が、納得のうえで協力往診医を利用している。他科受診についても、原則家族の付き添いとしているが、職員が支援、同行する場合もある。利用者の状態変化等、事前にFAXにて情報提供することもある。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週の訪問看護師により健康チェックや医療面との情報を交わし、相談を行なっている。また、変化がある場合は電話にて相談を行い、連携を図っている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の訪問(見舞い)や、ご家族と医師との話し合いの場に同席させて頂き、退院までのご入居者、ご家族との関わりを持つようにしている。病院の地域連携室とも連携し、通院時や入院中も情報が適切に伝わるようにしている。	入院となった場合は、協力医と相談のうえ家族の意向を優先した医療機関につないでいる。入院中も随時訪問し、関係者との情報交換とともに、利用者の安心にも配慮している。主治医からの退院への方向性を受け、早期退院に向けた事業所での受け入れ体制を準備している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関してはご入居時に指針を説明し同意を得ている。また、ご家族と医療関係者と交え、話し合うカンファレンスを必ず設けている。また、職員の不安感もあり、訪問看護師や、協力指定医への連絡を密に取り、状態把握をおこなっている。	法人内研修として職員は定期的に学んでいるが、看取り体制時は、随時チームとして職員間で共有を図っている。家族の協力は大きく、必須であり、看取り後の家族の思いを受け、職員間でも振り返りの機会を持っている。不安を持つ職員へのフォローとともに、経験を得たことの充実感も得ることができた。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや社内研修にて緊急対応の勉強会を行っている。また、フロア内に緊急時マニュアルを掲示している。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行い、シュミレーションからご入居者ご家族へご協力頂き、全員避難を目指し取り組んでいる。夜間の災害想定をした研修も実施している。また近隣の協力要請も依頼している。	定期的に、年2回(夜間想定含む)の避難訓練を実施している。特に夜間想定時については、消防署からの指導をもとに、利用者共に実践に即して行っている。夜間における職員の速やかな行動が求められ、毎回意識して取り組んでいる。運営推進会議で、地域への協力要請を働きかけている。	実際の訓練時に、近隣住民に見学してもらうことからでも案内、働きかけるなど、今後も継続していただきたい。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや態度などの接遇に関する研修を実施し、尊厳を守れるように心掛けている。また、ご入居者様の情報伝達実施場所を気をつけ、プライバシーの保護及び尊厳を守っている。	法人内接遇研修にて、周知を図っている。言葉かけについて気になる場合は、その都度職員間で注意したり、朝会や会議等で取り上げ意識統一を図っている。排泄時の声かけの大きさや、周りの状況等に注意し、利用者のわかりやすい言葉で伝えるようにしている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	発言しやすい環境を整え、自己発言・自己決定していることをないがしろにせず、対応するように実施している。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てにおいてご入居者様の生活の時間にあわせ、ご本人にお聞きし、その日を過ごして頂いている。一人ひとりの時間を大切にしよう心がけている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選んで頂けるよう対応している。また、ご自分で選ぶことが困難な方でも目線をあわせ、お聞きする姿勢を忘れないように心掛けている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の盛り付けや食器洗いはご入居者様と一緒にやっている。食事形態をご入居者に合わせ食べやすく安全な食事を提供している。	職員は利用者の役割に応じて声かけし、一緒に盛り付けている。利用者からの要望で、個々に好きな物や食べたい物を買っていくこともある。現在、以前行っていた手作り調理の日を設けていないが、検討を考えている。職員は、共に食していない。	手作りおやつや調理の日を少しずつからでも再開し、一緒に作って楽しむ機会を検討していただきたい。
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	いつでもお茶やその他の飲み物が飲めるように、用意している。ご入居者様同士で、お茶仲間を探し、自分たちのペースで摂取されている。コントロールができない方は、職員が把握し対応している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医からその方に合った口腔ケア方法を指導いただき、実施している。ご自身で、口腔ケアをされる方も奥まで清潔になっているか確認させて頂いている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを確認しトイレ誘導が必要な方は行っている。自尊心を欠くことの無い様声の掛け方等を配慮し、支援している。	現在、リハビリパンツにパットを使用している人が多数である。まずはトイレで座ってもらうことを勧め、習慣化するようにしている。声かけや誘導については、表情やしぐさから察知したり、食事前に声をかけている。拒否の場合は、職員が変わってタイミングをみて誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩・体操などの運動の時間を設け、腸の動きを良くするように支援している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望日に入浴を実施している。時間帯もご希望時間にできるだけ添えるように行っている。入浴拒否がある方には、時間帯に拘らず、ご自身のペースに合わせた入浴を実施している。	1日おきを目安に、声かけしているが、希望があればその都度、汚染時は随時、入浴してもらっている。その時の気分やタイミングもあるが、無理強いないせず、入りたい時に入ってもらうことを大事にしている。職員とのおしゃべりを楽しみにしている人もあり、一人でゆっくりくつろいでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安なことがあると、寝つきが悪くなる方には、気持ちが落ち着くまで話を傾聴している。無理に静養して頂くのではなく、疲れ具合を見ながら、居室に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で、薬情報の把握に努めている。ご入居者様の身体状態を理解し、必要に応じて、薬の変更を往診医や訪問看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様からあがった声を大切に、プログラムを考えている。その方ができる能力を活かし、家事の役割分担を行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が好きな方には気候がよい日に仲の良い方同士で散歩に行ける時間を設けている。季節を感じられる時には、車を使用し、北区や中央区までドライブを行っている。また、地域の夏祭りの参加やハーフル(ルミナリエ)の時は家族様と共に参加し、季節の行事を楽しまれている。	普段の散歩やお好みの外食等、希望に応じて出かけている。毎年花見の季節には、車でドライブがてら出かけることもある。地元の行事参加の折には、声をかければ地域住民の協力を得られる。喫茶店でお茶したり、花が好きな人はプランターで季節の花を育てている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで、物取られ妄想が見られるため、お金の預かりは行っていない。必要時は施設で立替し対応している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の声が聴きたくなった時は、ご自宅に電話して頂き、安心してもらっている。年賀状やお手紙が届いた時は、お返事を書けるように支援している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえるよう四季折々の花や、季節行事の張り紙また、イベントがあった後に写真を現像し、フロアで見ただけのようにしています。また、刺激のあるものでなく心地の良いものにし居心地を確認している。	食卓テーブルをいくつか配置し、別にテレビコーナーのソファも置いている。利用者の行事を楽しんでいる写真や季節の手作り作品が、来訪者の目をなごましてくれる。一つのユニットではテーブルを増やし、少人数で過ごせる配置を検討している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの周りに個室があり、入居者様は自由に行き来されている。また、入居者様のメンバーやADLの状況に合わせて、共有スペースの配置も変更している。フロア内でも休憩ができるソファを設置している。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内については馴染みの物や写真などを飾り、仏壇を居室に置き、毎日お水を変えている。また、使い慣れた寝具を持ってこられ安心して睡眠をとっている。	居室入口には、職員手作りの名札が掛けられており、利用者は安心して部屋で過ごしている。お誕生日の写真やカード、家族の写真等、思い思いに飾っている。テレビや小型の整理筆筒、椅子、ハンガー等、その人らしい暮らしがうかがわれる。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の場所や時間・トイレの場所がわかるように張り紙をし、ご自身で理解して行動できる環境を作っている。歩行が不安定な方にはベッド柵に介助バーを設置している。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容